

# 縄文文化と井戸尻の魅力

問 井戸尻考古館 ☎64-2044

## 井戸尻文化の中心地



八ヶ岳からの湧水が多く、南向きに開けたなだらかな傾斜地に、井戸尻遺跡群があります。

現在の茅野市から山梨県北杜市にかけての八ヶ岳西南麓は「縄文王国」とも呼ばれていますが、とりわけ富士見町の井戸尻遺跡群は、縄文時代中期（約5,000年前）に中部高地から西南関東にかけて花開いていた「井戸尻文化」の中心地だったことが知られています。

## いま「縄文」がブームになっています

近年は、岡本太郎をはじめとするアーティストたちの手によって、縄文土器の芸術性も高く評価されるようになり、最近では「土偶女子」「かわいい縄文」のようなキーワードも登場し、親しみやすいイメージが出来つつあります。

平成30年7月には、東京で大規模な「縄文展」が開催され、井戸尻考古館の土器もいくつか展示されました。さらに9月には、井戸尻の土器5点が長野県宝に指定されるなど、「井戸尻の縄文」はいま、再注目されているのです。



## 地元の遺跡は自分たちの手で守る

井戸尻遺跡で最初の発掘調査が行われたのは、今から約60年前の1958年（昭和33年）です。

学会や大学の学者ではなく、地元の人々と高校生が参加したこの発掘以降、「おらあとうの村の歴史は、おらあとうの手で明らかに※」という精神で、この地では学会や高名な学者に頼らない独自の研究が進められ、日本列島の縄文研究をリードしてきました。

※「おらあとう」は、この地方の方言で「私たち」の意味



▲昭和33年の発掘調査の様子

## ひと味ちがう、井戸尻の研究



▲人面深鉢（下原遺跡）  
長野県宝 平成30年9月指定

縄文時代は「狩猟採集」で食べ物を得ていたと考えられていますが、井戸尻遺跡群からは、農耕具と考えられる石器が多く出土することから、雑穀栽培を中心とする農耕が既に始まっていたと考えてきました。この「縄文農耕論」という学説が発表された当初は、学会では受け入れがたいものでしたが、最近の調査・研究により、植物栽培がおこなわれていたことが明らかになっています。

また井戸尻では、芸術的だといわれる土器の文様は単なる飾りではなく、すべて意味のある「図像」だとし、そこから当時の人々の心に迫る「縄文図像論」という研究を続けています。

このように、ほかの博物館や大学にはない研究の視点が評価され、多くの方々が訪れるほか、小説の舞台として取り上げられるなど、注目を集めています。

## 井戸尻考古館でお待ちしています

井戸尻考古館では、縄文時代の歴史を「知識」として展示するのではなく、未来を生きる「知恵」として皆様に伝えたい、と考えています。

日本を代表する豪華な土器群と井戸尻文化の研究の歴史。そしてこの大地に生きた人々の、生命のきらめきを感じてほしいと願っています。そこに、富士見を生きる私たちの未来が見えてくるはずです。

### 井戸尻考古館・歴史民俗資料館

【所在地】 富士見町境7053

【開館時間】 午前9時～午後5時

【休館日】 月曜日、祝日の翌日、年末年始

【入館料】 大人 300円、小・中学生 150円

## 「日本遺産」に認定されました

平成30年5月、富士見町を含む長野・山梨の14市町村にまたがる地域の縄文遺産群と、それらにまつわるストーリーが、日本遺産に認定されました。

### ★日本遺産とは

地域の歴史的な魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを、文化庁が「遺産」として認定するものです。

